

平成5（1993）年当時民家園では、岩澤家（平成2年移築復原）、原家（平成3年同左）、本館開館（平成4年）を経て移築・新築などが一段落し、博物館のソフト面の充実を図ろうとしていた。また、昭和42年以来順次移築した古民家の日常的な維持が課題となっており、清掃・燻煙による維持（茅屋根の延命舎）と動態展示としての囲炉裏情景再現を目指し、ボランティアを組織したいと考えた。

平成4（1992）年度冬に初めて実施した山田家の雪囲い展示で、平成5年2-3月に「日曜日開放」（囲炉裏の火焚きと解説）を行い好評を得たので、当時職員だった三輪氏が、自身も講師を勤めた講座「民家—ハレとケのフォーラム」受講修了者に声をかけ、平成5年10-11月の民家園まつり期間の金土日に囲炉裏の火焚きと床上公開を始めたのが、会の前段である。さらに同年12-翌3月に雪囲い展示（山田・菅原）期間の日曜、4-6月の日曜でも床上公開を実施した。これらのプレ期間を経て平成6（1994）年8月養成講座を実施し、炉端の会（以下「会」という）が8月末に正式発足した。

会の活動体制は、20年間の前半10年と後半10年とでかなり異なっている。

前半10年の活動は、第1グループ（活動開始平成6（1994）年9月、当初人員50名、翌2月に追加20名）・第2グループ（同平成10（1998）年4月、同51名）・第3グループ（同平成11（1999）年9月、同55名）によって行われた。

曜日班で行う火焚き（当初は1日1-2棟）などの活動・月例会・学習会・自主研修などは基本的にグループ毎に活発に行われた。主な園外研修については、複数グループ成立後は合同で開催された。会長はグループ毎に存在し、平成10年以降の対外的な会長は第1～3の会長で交互に勤めた。

これらの結果、グループ内の交流や学習が深まった一方、他グループとの交流の機会は少なく、日頃の活動における人員の応援・融通や活動ノウハウの共有などが十分できない面があったのではないかと推測される。

加えて、活動内容についても前半10年においては「炉端の会の活動は文化財である建物の維持が最優先で、それ以外は慎重に」という園側の考え方もあって現在に比べると範囲はやや狭いものであった。さらに園が新規募集を約6年実施しなかったため、特に土日を中心に会員が減り活動に支障をきたすようになっていた。

そこで会発足から10年余を経過した平成16・17年度に園と会で相談し活動体制の再編が行われた。

すなわち、①第1～3グループと4期（平成16（2004）年10月活動開始、当初人員22名）・5期（平成17（2005）年4月活動開始、同31名）とを一本化し曜日班は先輩後輩合同に ②月例会を一本化して会の最高意思決定の場とし月例会の補助として班長会を設置 ③会長・副会長は班長・副班長の互選に ④「グループ」は「期」と呼び替える こととした。

新たな会長に由解哲男氏が就任、会則・細則を整え、火曜班（21名）、水曜班（22名）、木曜班（23名）、金曜班（19名）、土日班（51名）ダブリ3名、休会10名の合計143名 となった。

これらの改革により炉端の火焚きだけでなくガイド活動などについても今までより幅広い活動が展開されることとなった。一方、当時の来園者数は伸び悩んでいたため来園者により楽しんでいただく方策が「民家園協力者会議」などで検討された。

会もこれらの検討に積極的に参画し、その結果活動のベースとなる考え方も従来から変化し、来園者に民家を見て、親しみ、楽しんでいただくために何をするかにも重点が置かれることとなった。

来園者のニーズなどをもとに新たな活動として平成18（2006）年1月「障子張り」「環境整備」「英語ガイド」「フリーガイド」の4チーム活動が始動し、曜日班とあわせて活動の場を広げた。

その後チーム活動は、平成19（2007）年4月「展示チーム」、平成24（2012）年5月「広報チーム」、平成26（2014）年3月「草バッタチーム」が発足し現在に至っている。

また、このような活動力増強により民家園の諸行事にも従来にもまして積極的な参画・支援が行えるようになった。また、会則・細則及びマニュアルは順次修正整備されている。

平成17（2005）年から毎年新たな会員20～40名の募集が継続され、平成27（2015）年4月に15期を加えた現在の会員数は265人となっている。

（編集委員 13期 金曜 布野）